



2022年度

ミャンマーを知る市民講座

—— 民主主義のための連帯 ——

(全5回)

講座概要

日時 …… 第1回8月24日(水)、第2回9月11日(日)、第3回10月27日(木)、
第4回11月16日(水)、第5回12月4日(日)
18時開始、19時30分頃終了予定 ※第2回のみ20時まで

場所 …… 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院メディア棟407会議室(対面の場合)

参加費 …… 無料

参加方法 …… 右のQRコードを読み取り、参加申請フォームに必要事項を入力して送信してください。フォームでの入力が難しい方は、本文に[氏名][住所][電話番号][所属(あれば)]を明記の上、タイトルを[市民講座参加希望]としてceams5143@gmail.com宛にメールをお送りください。各回の開催当日までに、ご登録いただいたメールアドレス宛にZoomのURLまたは開催場所についての情報をお送りします。



申込締切 …… 2022年8月21日(火) ※単発での受講をご希望の方は各回の3日前までにご連絡ください。

主催 …… 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院東アジアメディア研究センター

本講座の開講にあたって

2021年2月1日にミャンマーで国軍によるクーデターが発生してから1年半が経ちました。2020年総選挙で圧勝した国民民主連盟(NLD)が新政権を樹立するため国会を召集した日の早朝にクーデターを起こした国軍に対して、市民は平和的抵抗運動を展開しました。その後、国軍の数々の蛮行を受けて「国民防衛隊」を結成し、少数民族と連携して武装闘争を続けています。民主化を求める市民に対する国軍の武力弾圧によって多くの死者が発生し、人権団体「政治犯支援協会」によるとその数は2000人を超すといわれています。2022年7月には、国軍統制下の裁判所が民主派活動家らを処刑するなど、国軍の横暴も続いています。

現地の報道からは少数民族武装勢力に軍事訓練を受ける若者たちの様子も伝わってきます。抵抗勢力と国軍が衝突する国境地帯では、無抵抗の民間人を巻き込む無差別な攻撃が繰り返され、戦禍を逃れた難民の人道危機が差し迫っています。国軍は国内で情報統制を強め、市民たちの抗議活動を抑え込んだと主張していますが、こうした惨状は国際社会にほとんど伝えられていません。連日報道されるウクライナ情勢に埋もれて、ミャンマーの現状は置き去りにされているのではないのでしょうか。

こうした状況のなかでも、必死に内部の情勢を国際社会に向けて発信しようとする動きも見受けられます。世界各地でミャンマーの人びとが現地の市民と連帯し、国軍への抵抗がまだ終わっていないことを訴えているのです。過去、韓国や台湾の独裁権力は国際社会の圧力に神経を尖らせていました。在外コリアンや在外台湾人が重要な役割を果たし、トランスナショナルな情報交換のネットワークが稼働したことで、国軍の残虐行為を海外に知らせたのです。

世界各地のミャンマーの人びとの国軍に抵抗する意志と現地市民の連帯を共有することが、国際政治の舞台における制裁以上に、国軍には圧力を、抵抗勢力には希望を与えるはずです。日本でも各地でミャンマーの人びとが母国の民主化、平和と自由を求める活動を展開しています。本市民講座では、日本各地でのこうしたさまざまな取り組みについて共有し、持続的な関心が東アジアの民主化を推し進めてきたことをとおして、ミャンマー情勢にコミットする意義について考えます。

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院
東アジアメディア研究センター長

玄 武岩





各回の内容

第1回 8月24日(水)【対面&オンライン】 1988年と2021年のミャンマー民主化運動と 日本のつながり

ミャンマーは独立して75年経った今でも、民主化への道を歩むために国民がたくさんの犠牲を払わなければならない状態にあります。なぜでしょうか。ミャンマー民主化運動の変遷、特に1988年の民主化運動と2021年のクーデター後に起きた民主化運動に焦点を当てながら、日本の政府および民間がミャンマーの民主化に対してどのように関わってきたのか、あるいは関わってこなかったのかについて考察します。

ナンミャケーカイン (京都精華大学特任准教授)

ミャンマー出身。来日して32年。ミャンマーと日本、両方を母国として捉えている。立命館大学で博士(国際関係学)取得後、東京外国語大学で外国人特別研究員を務めた。2005年度より東京外国語大学をはじめ関東周辺にある様々な大学で「開発経済学」「東南アジア地域研究」「現代産業事情」などを非常勤講師として教える傍ら、通訳・翻訳も数多くこなす。2021年度より京都精華大学特任准教授に就任し、現在は「共に生きる～異なる立場を学びながら」というゼミを持ち、在日ミャンマー人に関することを研究している。

第2回 9月11日(日)【対面&オンライン】 カレーとクーデター

講師は、レトルトカレーの製造販売事業を起すために約5年間ミャンマーに滞在し、クーデターの前後もヤンゴンで生活していました。国軍が自宅に乗り込んできたり、近しい友人らが逮捕されたりして身の危険を感じ、現在は一時帰国中です。今回の講座では、ミャンマー料理を入り口としてミャンマーの文化に触れつつ、当時の現地の状況や、売上を寄付する池袋のミャンマー料理店の取り組みなどについて報告します。

保芦亮 (ミャンマー料理研究家)

1970年、東京都武蔵野市生まれ。ミャンマーで日本人として初のレトルトカレーの製造販売を志すも、二度にわたるコロナ禍で苦戦していたところ、ミャンマー国軍によるクーデターに巻き込まれた。現在は一時帰国中。現地スタッフとの遠隔作業で商品の完成を目指しながら、寄付のためにつくられたミャンマー料理店でボランティアをするなど、ミャンマー支援の活動をしている。

第3回 10月27日(木)【対面&オンライン】 前半 NUGの活動と少数民族の状況 後半 クーデター後の海外に暮らすミャンマー人の活動

NUG (National Unity Government) とは、クーデター後に設立されたミャンマー国民統一政府のことです。現在、国軍と対峙するための資金を世界規模のネットワークを用いて集め、日本を含む世界各国の政府に対しては国軍ではなくNUGを正式な政府として認めるよう訴えています。NUGの特徴の一つとして、これまでのミャンマー政府とは異なり、大臣や副大臣に少数民族出身者を任命していることが挙げられます。今回の前半は、NUGの活動と少数民族の状況について解説し、後半は、NUGと連携を図りながら、あるいは独自に世界各地で繰り広げられているミャンマー人の活動について紹介します。

ソーバラティン (NUG 駐日代表・在日カレン民族連盟幹部)

ミャンマー少数民族のカレン族出身。高校生だった1988年にデモに参加し、仲間が次々と軍事政権に拘束されたため、1990年にタイ国境へ逃亡して難民キャンプで暮らした経験をもつ。1992年10月に来日して働き、2006年に難民認定。現在、NUG 駐日代表のほか、在日カレン民族連盟 (KNL) の幹部やNPO 法人PEACE (ミャンマー少数民族支援団体) の副理事長なども務めている。

キンゼツヤミン (国際ミャンマー学者・専門家協会理事)

1981年生まれ。2008年4月に日本外務省による奨学金プログラムで来日。1年間日本語を学び、東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学の修士課程に進学。卒業後は都内医療系コンサルタント会社に就職。医療サービス企画、医療安全や臨床研究の分野に携わる。在日ミャンマー青年学生団体の立ち上げに関わり、多文化交流や社会貢献活動に参加。クーデター後は、国際ミャンマー学者専門家協会の一員としてミャンマーの支援活動をしている。

第4回 11月16日(水)【オンライン】 日本各地のミャンマー民主化運動

クーデター後、日本に住むミャンマーの人びとが立ち上がり、各地でグループをつくってさまざまな運動を展開してきました。各地のグループが連携し、デモや抗議行動などを一斉に行うこともあります。クーデターから1年半が経ち、活動方針やメンバーがそれぞれ固まるなかで、新たな課題も見えてきました。今回の講座では、札幌・東京・静岡・沖縄のグループの中心メンバーがそれぞれの活動内容や現状を報告したうえで、これからの日本での活動について話し合います。

トウン (Myanmar Youth Association Hokkaido 代表)

ミャンマーのパゴダ出身。現在、日本で生活して7年目。札幌に住み、コメダ珈琲店に勤務している。クーデター以降、Myanmar Youth Association Hokkaido (MYAH) を立ち上げて代表を務め、仲間とともにデモや募金活動などを行ってミャンマーを支援している。

キンヤダナソー (ShizuYouth for Myanmar 代表)

1994年生まれ。現在、日本に来て8年目。日本の企業で会社員として勤務している。クーデター以降、静岡県内でミャンマー支援活動を行うグループ「ShizuYouth for Myanmar」を結成。多くの人にミャンマーの現状を伝えるとともに、日本からできる支援活動を進めている。

トウヤソウ (在沖縄ミャンマー人会事務局長)

2009年来日し、日本での生活は現在14年目。ミャンマーとその文化を知ってもらうため、2013年にロイヤルミャンマー食堂を開店した。クーデター以降は在沖縄ミャンマー人会の事務局長として抗議活動をしたり、多くの日本人にミャンマーの現状を伝えたりするなど、ミャンマー支援活動も行っている。

第5回 12月4日(日)【オンライン】 ミャンマーの抵抗運動への日本人の連帯

在日ミャンマー人のグループが続々と設立され活動する中で、各地の日本人による支援グループも数多く生まれました。今回の講座では、東京で活動する講師と大阪で活動する講師がそれぞれの活動や日本各地の支援者のネットワークについて報告し、日本で暮らす人びとにできる支援のあり方や連帯のかたちについて考えます。

石川航 (日本ミャンマー MIRAI 創造会 日本側代表)

東京外国語大学修士課程在籍。学部時代からミャンマー地域やビルマ語を専攻し、現在は日本におけるミャンマー民主化運動について研究中。在日ミャンマー人と立ち上げた有志グループ「日本ミャンマー MIRAI 創造会」を中心に活動し、日本側代表を務める。募金活動やクラウドファンディングといった緊急支援や、日本政府への要請活動、ミャンマーの現状や文化の発信に取り組んでいる。

藤田哲朗 (ミャンマーの今を伝える会 創設者)

妻がミャンマー人の一般会社員。大阪府在住。2021年2月21日にフェイスブック上に「ミャンマーの今を伝える会」というコミュニティーを立ち上げ、日本人へ向けてミャンマー情勢に関する情報を発信している。また、軍による規制によりミャンマーからの情報が届きにくくなって以降、日本国内でのミャンマー支援活動についても情報発信を行っている。

